

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373401037		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム 美和		
所在地	岡山県真庭市樫東43-1		
自己評価作成日	平成26年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3373401037-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成26年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山林・田園に囲まれた静かな環境の中の昔ながらの旧家で生活しています。純和風作りの建物が家庭の延長になり、馴染みの環境の中で、利用者ご自身も、今までしてきた「土いじり」や「趣味」を生活の中に取り入れ、安心して心穏やかに、笑顔のある生活をして頂けるような「ケア」を目指していきたいと思っています。又、地域の方々、家族の方々とも季節の行事や趣味を通して声を掛け合えるように努めたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年に設立されて以来、山に囲まれた静かな田園地帯に大きな旧家を改造して、この地域から集まってきた9人の住民が住むこのグループホームも10年の歳月が流れていた。利用者も入れ替わっているが、それぞれの人が共通の故郷を持ち、住み慣れた風情に接してお互いに助け合って、一つの屋根の下で楽しく過ごしているという実感を持つことができた。この地域とのつながりも産んで、地域の方々の方々の芸達者ぶりを見せてくれたり、学校や公民館活動にも参加し、そしてホームの行事へ招待といった多彩な盛り上がりを見せている。丁度訪問調査の日は、安来節の同好会が慰問に訪問され、三味線やギター演奏で歌あり、踊りありで賑やかな一時を利用者さんと一緒に見せてもらった。その中でも旧知の人との出会いのシーンもあり、この地域ならではの感激する場面に遭遇することも出来た。管理者を始め職員一同、しっかり利用者を支え、難しいケアも全員で克服している様子も垣間見ることが出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は、もちろん昨年の目標の反省多数を掲示し、職員間の統一とし、日々初心に戻り業務にあたりました。また、今年度の個人目標を立て、年度末には個人の目標を反省し見直しをしています。	法人全体の理念に則り、自分たちの業務を振り返って見た時、改めて「初心を忘れず・言葉に注意」の必要性を感じ、このホームの年間目標を掲げ、共有、実践している。近年、新しい入所者と新人職員という関係の中で、和やかで、笑顔が見える暮らしが実現していた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、地域の行事の小学校の運動会、学習発表会は体調不良を考慮して全員参加とはなりませんでしたが、他の行事には全員で参加が出来ました。	この地で、唯一の福祉施設「G. H美和」は地域貢献と村興しの拠点となっていることを以前から聞いている。納涼祭、花火大会、演芸ボラ、野菜作り、学校行事、公民館のお茶会への参加等、多くの付き合いがあり、本年新たに地域の人の紹介で安来節のボラが増えている。演芸の日には、地域の人にもご案内し、一緒に楽しんでいる。職員のこうした働きかけへの努力が、お付き合いとして広まっている。交流風景の写真は玄関に常設して広く紹介されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や畑仕事等、交流の中で理解してもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域代表者・市職員・施設職員との話し合いの場等に組み入れ、希望や思いを汲み取り、利用者の細かいサービスに活かせるように努めました	毎回、利用者の日常を写真で紹介する「美和だより」を資料として提出しているため、利用者の日常が非常に良く理解され、活発に意見が交わされている。町内会長は、行事の企画にも積極的に関わり、防災関係では立地条件の整った自宅を避難場所として助言している。会議での発言内容は、口語で明記されている会議録を確認する事が出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	真庭市グループホーム連絡会議において、市職員と連絡を取り合っています。	運営推進会議やG. H連絡会議を通じて十分な連携が図れている。市から業務上の参考資料の提出もあり、協力関係は良好に成立している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無施錠を常に心がけていますが、危険性があれば個人的にリスクに沿った対応をしています。	身体拘束、虐待防止についても勉強会を行い、共通認識を深めている。計画的な外出支援により不穏行動が減少し、表情と喜怒哀楽の表現が良くなった利用者、また、徘徊のある利用者の為に、金魚の水槽を設置したところ、水槽の前に長く止まり落ち着いた表情が見受けられ、動きもある程度落ち着いたという事例を聞いた。身体拘束をしないケアのあり方を職員間で考案し、実績を一つひとつ積み重ねているのが嬉しい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング・職員会議の場で時間を作り、話し合いの場を持ち、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市等の研修に参加した職員は職員会議の場で発表し合い、学ぶ場、機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項等の説明をしています。改定時には文書で連絡を入れ、来初時に口頭説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において利用者や家族から意見を聞いています。	月平均2回から3回ホームを訪れている家族の面会簿が玄関に設置してあった。面会の都度、利用者とのツーショットをおさめ、出会いの好機に意見や意向を聞くようにしている。利用者の日常の様子は、毎月、「美和だより」に写真満載で届けているので、訪問しにくい家族にも好評で、意見もよく届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営規定を掲げており、また、理念も職員間で統一しています。職員会議の場で意見交換しており、ケアや業務に積極的に反映させるように努めています。	新人職員が多い現状で、不穏者やレビー小体と言う特殊な実例を抱える中で、その対応の在り方についてよく意見が交わされている。外出の機会を増やしたことで喜怒哀楽表現が出来始めたこと、金魚水槽をリビングに置いて、それを見ている利用者の落ち着いた方等から、職員間で話し合って到達した満足感が少しずつ芽生えているという事例を聞くことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内での「規約」通りに遂行されます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	荘内・外での研修に参加を呼びかけ、知識の習得に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	4ヶ月に一度、真庭市のグループホーム連絡会議と市職員による会議を開催しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時調査に於いて家族からの要望を尋ねています。入所してからは、本人が何がしたいのか、何を必要としているのかを観察、傾聴に努め、安心を確保し、馴染み関係に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時調査に於いて家族から要望や困っていることを尋ねています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時調査に於いて聞き取りと本人の観察をして対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事をしてもらいながら利用者同士、職員もその中に入っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来られた時、本人の要望を家族にお願いをしたり、家族の思いを傾聴しながら信頼関係作りを行い、利用者を共に支えられるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常に傾聴に心掛け思い出の場所に行きたい要望があれば、無理のない程度で外出をしていましたが、月／3回の外出日を決めています。	今年3月から、月3回の計画的外出支援を確立し、それぞれの思い出の場所、行きたい所への実現が増えている。訪問日に安来節ボランティアの団が慰問に来た。その中に旧来の知り合い同市の偶然の再開があり、泣き笑いの一場面があった。このような行事には近隣者も招待し、利用者と交流する馴染みの関係が生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が「場」を盛り上げたり、掛け合いながら関わりを持っています。利用者同士仲間意識が出て同じテーブルとし、密に接することが出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅の延長戦として捉え、施設が出来る事があれば繋げるように努めています。例えば、本人希望・生活習慣で「昼生活」では、昼生活の支援を添えるようにしています。	このホームを訪れて一番に、職員同士、利用者同士、その双方がマニュアルチェックな関係ではなく、素朴な生き方そのものを支え合っている雰囲気強いホームだと感じた。日常の作業としては、生活記録表に日頃の様子と変わった行動や発語を特記し、職員間で話し合っ、思いや意向を把握し、必要あれば介護プランに反映させている。	人はどんな環境であっても、生きる勇気を与えられることが大事であり、その環境を作ってあげることがホームの役割であろう。共同作業やレク等の多くの選択肢の中から職員が見つけてあげることが、多くを訴える事の出来ない利用者にとって生きる喜びに繋がっていくのだと思っている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ライフスタイルヒストリーにより、今までの生活歴を尋ねています。(人生歴の暦の作成に取り組みをしていきたいと思っています)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒にすることや、個人で出来る事をして頂き出来るだけメリハリのある生活に取り組んでいます。あくまでも個人に合わせての取り組みです。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決め、常に目が行き届くように配慮しており、課題・ケア内容を職員会議・カンファレンスで話し合い、現状に合ったもの作成しています。	新人職員が多いこのホームの現段階では、難解な形式の記録物は排除し、担当制で利用者をしっかり観察し、生活日誌に記録することに徹している。計画作成担当者がプランニングし、職員会議やカンファレンスで話し合っている。介護計画表の本人、家族の意向は具体性に乏しい面があるが、専門職としての立案がしっかり示されていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有するために個別・内容別に記録を取るようになっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・個人の状況に対応できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での催し物には、出来るだけ参加するようにしています。又、ボランティアの慰問もお願いします。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、家族の希望により決定し、家族が受診される時は、日頃の様子を伝えたり、往診時はその日の朝、個人別の健康に関する情報をFAXし、往診時に結果や対応の指示を受けています。	市が提供しているホームと医療関係者の連携のための「真庭共通シート」を、美和ホーム用に変えた様式を活用している。介護の経過記録に日常と違った症状を特記事項として記入し、担当職員2名が共通シートに転記して受診の際に、正確な情報を医師に提供して、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告を受けた事はかかりつけ医・看護師に相談し、医師の指示を受けたり、受診後家族に伝えていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に付き添いその時、又、病院訪問時より看護師情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に重度化した時の対応の説明をしています。又、施設で出来るところまでは対応しています。	重度化した時はかかりつけ医の指示を仰ぎ、家族に判断を求めている。近くに総合病院や医療機関が無いので、今後もこの姿を継続していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議の場で勉強会をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災災害は年／2回消防署立会いの下、自然災害は年／1～2回の訓練を行っています。マニュアルを作成しています。又、運営推進会議の時に地域の方と話し合っています。	自然災害に対する危機感を持ち、運営推進会議でも今後の重要課題として話し合わせ、地区民あがての防災意識の高揚に努めている。ホームから最短距離に位置する町内会長宅は立地条件が良好で、地域の避難場所よりも近いので、避難場所にと提案して頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声が高かったり、早口になったり、大声になったり、又、目上に対する声掛けでなかったりとしてしまいがちになりますが、個々反省しながらプライバシーに十分気を付けるように努めています。	新人職員と新しい利用者との間に馴染みの関係が良好に成立している。職員が業務を振り返って見て企てた年間目標は「初心を忘れず、私語を慎み、言葉に注意」を掲げたり、十分に尊重した丁寧な会話と優しい介護の姿を見ることが出来た。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ何をしたのか、どうしたいのかを尋ね、出来る事は対応するように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々自由に過ごせるようにしていますが、職員が側のペースに合わせているようにも思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たいものを尋ねてみたり、その日の気候・温度を考慮したり、自分で進んで着られる方にはおしゃれを誉めて、きれいに整える気持ちを大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの方が居られなくなり、段々と台所仕事が減ってきています。ですが行事の時のおやつ作り・餅つきなどはして頂いています。	静かなテーブル、介助が必要なテーブル、会話を楽しむテーブルと分かれ、職員がそれぞれに配置し、和やかな食事風景であった。外出の機会に好みの食事を楽しんだり、行事食を楽しんでいる記録写真を見せてもらった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分一日に1500cc～1800ccを基準に飲んで頂いています。食事量・食事形態は個人に合わせており、全て記録に残しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行なっています。出来る方には声掛けをし、出来ない方には介助をしています。夜間は入れ歯洗浄剤で清潔にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄状態に合わせる、排泄パターンを把握し、出来るだけトイレ使用に努めています。	法人全体で取り組んでいる「おむつはずし運動」を実践していき、綿密な排泄記録を基にして個人に適切な誘導支援を行っている。全員トイレ誘導が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に気をつけ、便秘解消の食べ物・飲み物摂取に心掛け「下剤」に依存せぬように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に満足して頂くために隔日にして頂き、ゆっくりと気持ち良く入って頂くようにしています。	毎日型から隔日型に切り替えた入浴は、職員と利用者がゆっくりと関わる絶好の時間帯となっている。リビングでは殆んど発語のない利用者が、ととと自分の思いを吐露されることもあると聞いた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせています。身体状況により足浴をする事もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と処方箋の確認、職員の分からない事は医師に尋ねて、体調管理に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を通して完成した喜び・好みの食べ物・畑で作ったものを収穫する楽しみ・作ったものを使った料理をする等、気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月／3回の外出の日を作っています。それに合わせて希望に沿っています。又、それ以外でも希望があれば出掛けて「外食・喫茶店でお茶・ドライブ」を楽しんで頂いています。	居室に面した芝生や日本庭園の散策は自由に行われており、リビングから職員が目が届く範囲にあるのが嬉しい。門のすぐ前にある畑の作業も手頃な外出気分を味わえる効果がある。毎月の計画的な外出支援で外食をしたり、少し遠出で世間との交流を図った結果、利用者の顔の表情と、喜怒哀楽の感情表現が良くなっていると管理者から聞くことが出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいとの希望があれば、所持してもらっています。(家族に了解の上、紛失の事を考慮した金額)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば職員が電話をかけて、話が出来るように支援しています。又、記録に残しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着く場所で過ごして頂けるように支援しています。季節感が出せるように施設内を工夫しています。	格式高い旧家を改造して造られたこのホームは、床の間と欄間の和室を中央にしてリビングが広がり、錦鯉が泳ぐ日本庭園、芝生の庭、門構えの構造を残している。リビングに居ながらにしてこの風景の中に浸っていられるので、家庭的と言うには、この上ない環境である。11月に訪問した日にはすでに大型ストーブで暖をとっており、心地良さそうに利用者が勢ぞろいしてお茶をいただいていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要最低限の物だけにして、混乱しないようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んだり、使い慣れたものを側に置いて頂くように話しています。	居室は構造上の面から画一ではなく、少し広い部屋、庭の風景をいっぱい取り入れられる環境の部屋等がある。自分の作品や家族とのツーショットを飾り、職員や家族と一緒に部屋づくりをしている暖かさを感じることが出来た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かりやすいように、共有・自室に名前をつけています。		